

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：32206

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K19000

研究課題名（和文）看護師の倫理的行動獲得モデルの精緻化とクリニカルラダーごとの組織支援方法の検討

研究課題名（英文）Refinement of a model for learning ethical competency for nurses and examination of organizational support methods for each clinical ladder

研究代表者

吉岡 詠美 (Yoshioka, Emi)

国際医療福祉大学・小田原保健医療学部・准教授

研究者番号：90790957

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、病棟看護師が倫理的な看護実践を行う上で重要となる倫理的行動獲得モデル（関連要因）の検証によって、病棟看護師の倫理的行動の獲得を目指した科学的かつ効率的な組織的人材育成の方策を検討することを目的とし、1)病棟看護師の倫理的行動の獲得プロセスを体系化し、2)クリニカルラダーごとに病棟看護師の倫理的行動獲得モデルの構築と関連要因の検証を行い、3)病棟看護師の倫理的行動の獲得に関する科学的かつ効率的な教育プログラムおよび組織支援のあり方を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、看護師の倫理的行動と倫理的行動の獲得メカニズムを可視化することによって、看護師自身が成長していく筋道を探ることが可能となった。また、クリニカルラダー各レベルの倫理的行動の行動基準を提示することで、看護師は倫理的行動を向上するためにPDCAサイクルを効率的に回すことが可能になった。さらに、看護師の倫理的行動の関連要因を解明することで、看護師の倫理的行動の向上を目指した組織的かつ戦略的人材育成の方策を提示することが可能になった。このことから、看護師のクリニカルラダーの各レベルに合わせた看護師の看護倫理教育の体系化が図られ、組織的支援によって倫理的行動の向上に寄与することが示唆された。

研究成果の概要（英文）：In this study, we aim to develop a scientific and efficient method for acquiring ethical competency among ward nurses by verifying a model for acquiring ethical competency (related factors) that is important for ward nurses to perform ethical nursing practices. The purpose of this study is to consider strategies for organizational human resource development, 1) systematize the process of acquiring ethical competency among ward nurses, and 2) construct and relate models for acquiring ethical competency among ward nurses for each clinical ladder. We examined the factors and 3) proposed a scientific and efficient educational program and organizational support for acquiring ethical competency among ward nurses.

研究分野：看護倫理

キーワード：看護倫理 倫理的行動 倫理的ケアコンピテンシー 病棟看護師

1. 研究開始当初の背景

急速な医療の進歩や複雑さ、先進医療の発達、患者の権利の重視、価値観の多様化など、医療を取り巻く環境は変化している。そのため、看護師は日々倫理的問題に対応することが求められている。こうした状況を踏まえ、看護師が倫理的問題に適切に対応し、患者に質の高い看護を提供する上では、看護倫理教育が鍵となる。わが国の看護継続教育における倫理教育については、「新人看護職員研修ガイドライン」の中で「患者の人権を擁護する」、「倫理に基づいて行動する」、「納得できる説明を行い、同意を得る」、「守秘義務を厳守しプライバシーに配慮する」といった看護倫理に関する目標が提示されている(厚生労働省, 2014)。また、日本看護協会は看護師のクリニカルラダーを作成し、各レベルにおいて期待される看護実践能力を提示することを推奨している(日本看護協会, 2012)。これらのことから、わが国では看護継続教育における看護倫理教育の必要性は提示されているものの、看護師のクリニカルラダーの各段階における具体的な教育内容や方法については示されておらず、各病院に委ねられ、教育担当者が試行錯誤しながら看護師の倫理教育を展開している現状があり、看護師の倫理的判断能力にもばらつきが生じている現状がある。

2. 研究の目的

本研究では、病棟看護師が倫理的な看護実践を行う上で重要となる倫理的行動獲得モデル(関連要因)の検証によって、病棟看護師の倫理的行動の獲得を目指した科学的かつ効率的な組織的人材育成の方策を検討することを目的とし、1)病棟看護師の倫理的行動の獲得プロセスを体系化し、2)クリニカルラダーごとに病棟看護師の倫理的行動獲得モデルの構築と関連要因の検証を行い、3)病棟看護師の倫理的行動の獲得に関する科学的かつ効率的な教育プログラムおよび組織支援のあり方を提示する、これら3つの視点から検討を行う。

3. 研究の方法

1)病棟看護師の倫理的行動の獲得プロセスを体系化

病棟看護師が倫理的行動を獲得するプロセスを明らかにするために、6つの一般病院の病棟に勤務する看護師11名を対象にインタビューを行い、M-GTAで分析を行った。

2)クリニカルラダーごとに病棟看護師の倫理的行動獲得モデルの構築と関連要因の検証

(1) クリニカルラダーごとに病棟看護師の倫理的行動獲得モデルの構築

看護ケアの倫理コンピテンシーの構成要素を明確にするため、1)のインタビューの項目を参考に看護ケアの倫理コンピテンシーに関する項目を作成し、関東甲信越地方にある地域医療支援病院3病院に勤務している病棟勤務の看護師687名を対象に調査した。分析は、記述統計による項目分析を行い、探索的因子分析(主因子法、バリマックス回転)を行った。抽出された各因子で因子負荷量の高い項目($r > .350$)を選定して、再度因子分析(主因子法、バリマックス回転)を行い、因子の収束性を確認した。信頼性は、項目全体と抽出された各因子の信頼性をCronbachの係数で内的整合性を確認した。次に、看護ケアの倫理コンピテンシーのモデルを構築するため、構成要素間の関係を仮説モデルに基づき、共分散構造分析を行った。

(2)関連要因の検証

クリニカルラダーごとに関連要因の検証を行うため、はじめに病棟看護師の倫理的実践コンピテンシー尺度を開発した。調査対象は、研究協力の同意を得た関東甲信越にある198床～499床の地域医療支援病院と一般病院の急性期もしくは回復期、慢性期の病棟を有する5病院の病棟に勤務する看護師1260名を対象とした。そのうちの425名を対象に再テストを行った。調査期間は、2022年11月～2023年5月とした。再テストは、1回目の調査終了後から2～3週間後に実施した。調査内容は、「病棟看護師の倫理的実践コンピテンシー尺度」原案24項目と、併存妥当性を検討するための「看護の専門職的自律性測定尺度（菊池ら，1997）」、個人属性とした。分析は尺度開発の手順に従い、尺度項目の精選（欠損値，天井効果・床効果，I-T相関，I-I相関の確認）、探索的因子分析、妥当性の検討（構成概念妥当性，基準関連妥当性の検討）、信頼性の検討（内的整合性，安定性の検討）を行った。

開発した「病棟看護師の倫理的実践コンピテンシー尺度」の関連要因を検証するため、スコピングレビューを実施し関連要因を抽出した。次に、「病棟看護師の倫理的実践コンピテンシー尺度」の関連要因を検証するため、200床から400床を有する地域医療支援病院と一般病院8施設に勤務する病棟看護師1570名を対象に、2023年10月～2024年3月にアンケート調査を実施した。調査項目は、病棟看護師の倫理的実践コンピテンシー尺度、個人属性、関連要因（教育的支援、上司および同僚の支援、看護倫理の知識、倫理カンファレンス、看護実践など）である。分析は、単回帰分析を行った。なお、分析は看護のクリニカルラダー（新人、 、 、 ）ごとに実施した。

3)病棟看護師の倫理的行動の獲得に関する科学的かつ効率的な教育プログラムおよび組織支援のあり方を提示

2)の結果をもとに、科学的かつ効率的な教育プログラムおよび組織支援のあり方を検討した。さらに、看護のクリニカルラダーごとに倫理的ケアコンピテンシーの獲得状況を明らかにするため、病棟看護師の倫理的ケアコンピテンシーの基準となるベンチマーク（四分位）を提示した。

4．研究成果

1)病棟看護師の倫理的行動の獲得プロセスを体系化

病棟看護師が倫理的行動を獲得するプロセスには3つの段階があり、第1段階は倫理的行動の前提条件として【倫理に関する学習の機会】【倫理的問題に遭遇する機会】、第2段階は倫理的行動として【違和感の認識】【倫理的問題の判断】【倫理的問題を解決するための実践】【倫理的行動の内省】、第3段階は倫理的行動の帰結として【看護実践の質の向上】【看護専門職としての自律性の向上】が抽出された。これらの各段階には、【職場風土】が影響していた（図1）。

看護師が患者により良い看護を提供する上で、臨床での倫理的問題を自由に検討し合える組織風土が、看護師の倫理的行動の獲得に影響を与えていることから、組織風土の改革が重要であることが示唆された。

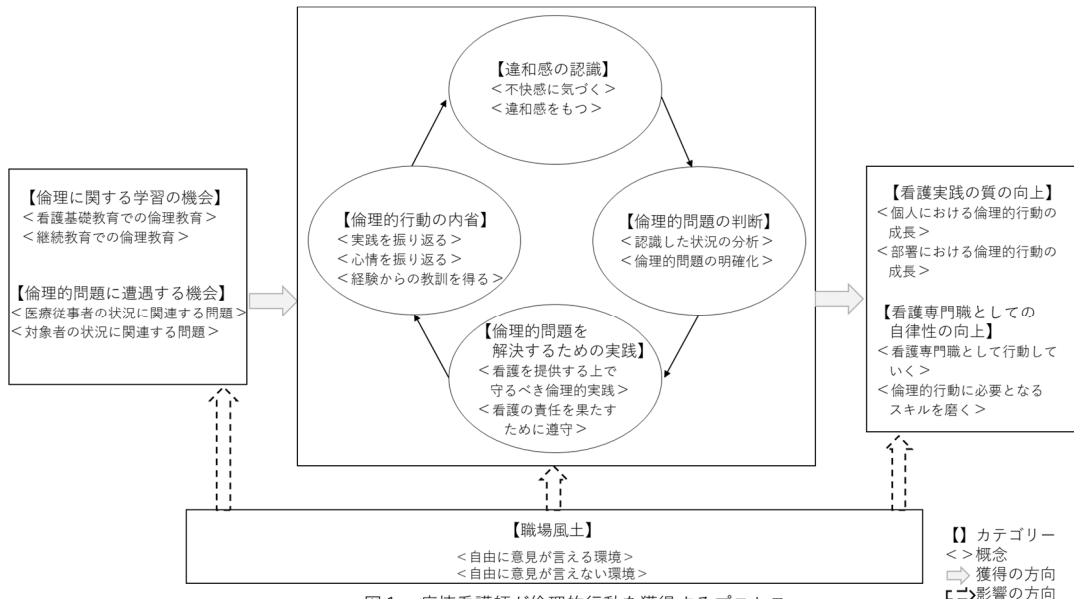


図1 病棟看護師が倫理的行動を獲得するプロセス

2) クリニカルラダーごとに病棟看護師の倫理的行動獲得モデルの構築と関連要因の検証

(1) クリニカルラダーごとに病棟看護師の倫理的行動獲得モデルの構築

看護ケアの倫理コンピテンシーの構成要素は 7 つで構成されていた。構成要素間の関係性は、【倫理的課題の特定】から【倫理的課題の共有】を経由し 看護実践 へ、もしくは【倫理的課題の特定】から 看護実践 への2つのルートを経て、【倫理実践からの教訓】と関連を示した。潜在変数 看護実践 は4つの行動に関するコンピテンシーと関連した。

今後、看護ケアの倫理コンピテンシーの構成要素間の関係性を踏まえ、7つのコンピテンシーの獲得に焦点を当てた研修と周囲のサポートが必要だと考える(図1)。

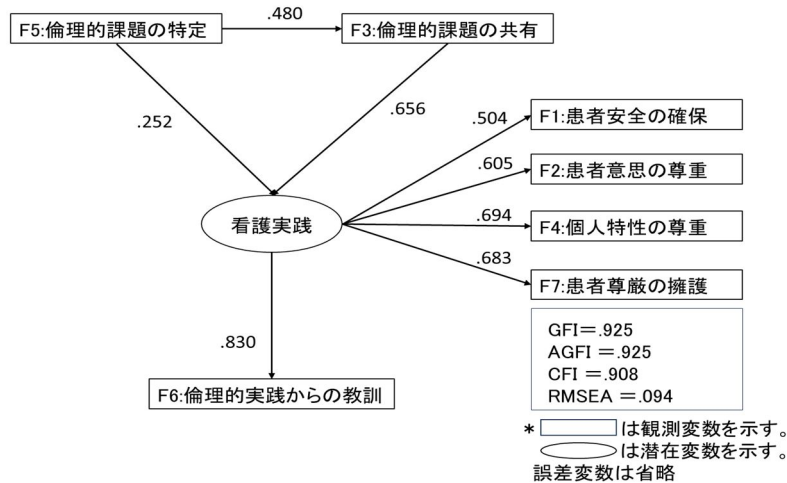


図1 看護ケアの倫理コンピテンシー尺度の構成概念妥当性の検証

(2) 関連要因の検証

クリニカルラダーごとに関連要因の検証を行うため、はじめに病棟看護師の倫理的ケアコンピテンシー尺度を開発した。病棟看護師の倫理的ケアコンピテンシー19項目の因子分析を行い、構造的妥当性、基準関連妥当性、内的一貫性、信頼性を検証した。因子分析の結果、4因子16項目が抽出された。モデル適合度は、 $GFI = .957$, $AGFI = .929$, $CFI = .968$, $RMSEA = .053$ で構造的妥当性が確認され、4因子と看護実践の卓越性自己評価尺度-病棟看護師用-との相関は $r = .313 \sim .527$ で基準関連妥当性が確認された。4因子の係数

は.800～.855であり内的一貫性が確認、級内相関（ICC）は $r=.613 \sim r=.703$ で信頼性が確認された。

次に、看護倫理に関する研修の受講経験の有無によって、病棟看護師の倫理的ケアコンピテンシーに差があるかを、クリニカルラダーごとに検証した。病棟看護師の倫理的ケアコンピテンシー尺度の F1【意思決定を尊重したケア】は、ラダー のみコミュニケーションスキルに関する研修と有意差があった。F2【尊厳を尊重したケア】は、ラダー がファシリテーションスキルに関する研修、ラダー がリフレクション、コミュニケーションスキル、ファシリテーションスキルに関する研修と有意差があった。F3【個別的特性を尊重したケア】は、新人とラダー がリフレクションスキルに関する研修、ラダー がコミュニケーションスキルとファシリテーションスキルに関する研修と有意差があった。F4【安全を確保したケア】は、有意差がなかった。

3)病棟看護師の倫理的行動の獲得に関する科学的かつ効率的な教育プログラムおよび組織支援のあり方を提示

ラダーごとの病棟看護師の倫理的ケアコンピテンシー尺度の総得点（ $\text{mean} \pm \text{SD}$ ）は、新人が 61.9 ± 6.6 、 が 60.7 ± 8.1 、 が 57.5 ± 8.2 、 が 56.5 ± 8.3 、 が 59.6 ± 8.6 であった。今回、各ラダーの基準となるベンチマークを提示した。ベンチマークは病棟看護師の倫理的ケアコンピテンシー尺度の総得点の中央値（四分位範囲）を算出した結果、新人が $62.0(57.5-66.0)$ 、 が $60.0(55.3-65.0)$ 、 が $58.0(51.0-63.0)$ 、 が $56.0(51.0-62.0)$ 、 が $58.5(53.0-66.0)$ であった。看護師が、自分のコンピテンシー得点を確認し、自分が同じラダーである病棟看護師全体のどの程度の位置づけにあるかを把握することが可能になり、自分の強みと弱みを理解した上で倫理的ケアコンピテンシー獲得に向けた自己研鑽が可能になると考える。また 2)の研究成果を踏まえ、関連があった支援を実施していく必要があると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 吉岡詠美 金子さゆり	4. 巻 -
2. 論文標題 看護ケアの倫理コンピテンシーの構成要素と関係モデル	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本看護倫理学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32275/jjne.20230124	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 吉岡詠美、宮山涼子、金子さゆり
2. 発表標題 看護師が倫理的行動を獲得するプロセス
3. 学会等名 日本看護倫理学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉岡詠美、金子さゆり
2. 発表標題 スコーピングレビューによる看護師の看護倫理教育の現状と課題
3. 学会等名 日本看護科学学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------